

えひめ

# 若竹号外

平成2年10月15日

発行

798

宇和島市和靈町151

愛媛県神道青年会

広報委員会

(0895) 22-0197

## 「大嘗祭」に思う

愛媛県神道青年会会長 柳原 幸

県内各地で豊作に感謝する秋祭りの声が聞かれた始めた今日この頃ですが、皆様方にはお忙しい毎日をお過ごしのこととお察し申し上げます。

さて、この度当青年会では六月から



松山市銀天街にて

九月にかけまして、東・中・南予各地区に於いて大嘗祭の街宣活動を行い、広く一般県民の方々に大嘗祭の意義とその素晴らしさを啓蒙して参りました。共に汗を流していただきました県女子神職会の皆様方にこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。そして今回その活動内容をまとめて特集号として発行することに致しました。

数回にわたる啓蒙活動で大きな成果を望もうとはもとより思つて居りませんが、我々青年神職の「一人でも多くの方々に大嘗祭の意義を理解して頂く」という情熱の顕現として又、勇気の証としての啓蒙活動をお伝えすることによつて、会員の方々に並びに宮司様が今後各御社頭でのより一層の啓蒙・奉祝に向けて、大いに発憤して預ければ幸いに存じます。

ところで、大嘗祭に就きましては「日

# 大嘗祭情宣活動特集

本書紀」天武紀二年十二月条に「丙戌(五)に、大嘗に侍奉れる中臣、忌部及び神官の人等、并せて播磨、丹波、二つの國の郡司、亦以下の入夫等に、悉に禄賜ふ」とあるように天武朝に大嘗の名が出て参ります。従いまして、この大嘗祭は文献に現れた歴史を見るだけでも、少なくとも千三百年以上の歴史があり、世界の君主国の中でも何処にも見いだせない長い歴史と伝統を持つ貴重な即位儀礼である訳です。

歴代天皇の「宣命」の中に「遠天皇祖の御世、中今にいたるまで」といった表現が用いられております。これは現在がそのまま神代の顕われて盛んな時代である、という意味ですが、このような歴史観はわが国独特のものであります。その背景には、今において「神代」を見ようとする精神が日本人の思想の根幹として継承されてきたからであります。神社で毎年繰り返して繰返し行われる祭典も神代ながらの祖先の祈りを今の現実世界において時代を超えて表現し、「祭り」の度に「神代」が甦る訳であります。

万葉歌人である山上憶良は遣唐使舟比広成に贈った「好去好來の歌」において「神代より言ひ伝えて来らくそらみつ倭の國は皇神の厳しき國言靈の幸はふ國と語り継ぎ言ひ継がひけり今の世の人の悉目の前に見たり知りたり(下略)と、日本が皇神の神威に守られ、言靈の幸はふ國であることは今の人等が眼前に見る事実である、と歌っております。万葉人にとって、神話の世界は空想のものではなく、過去の出来事でもなく、今まさに現実の世界として受け止められています。

この秋に今上陛下は第百二十五代天皇として御即位されます。百二十五代に至るまでの時間は永遠と言う言葉で表現しても過言ではありません。そしてこの度の大嘗祭は千三百年以上の永遠なる昔を今に顕わす祭りです。ここに大嘗祭の大きな意義があると思うわけであります。さきほどの山上憶良の歌「神代より言ひ伝えて来らくそらみつ倭の國は・・・今の世の人も悉目の前に見たり知りたり」が即位を迎える現在において歌われても何の不思議

えひめ

も感じさせないところに、日本は悠久の伝統が今に甦えつつある国であることを物語っており、まさに「遠天皇祖の御世、中今にいたるまで」であります。

天皇の本質の第一は「祭り主」であります。神社界の理論的指導者である葦津彦彦氏は天皇の本質について「天皇のおつとめの第一は、祭り主をなさるといふことなのである。この祭りによって、天下の人心の神聖をもとめる心を保たれることである。(中略)祭りこそは天皇の第一のおつとめである。だから天皇は御即位後に大嘗祭の重儀を行はせられ、その後毎年、数々の恒例臨時のお祭りをなさるのみでなく、日常不断に祭り主としての御生活をなさる」(天皇 昭和から平成へ)よりと述べています。又、反天皇の旗頭である村上重良氏も「歴史上の天皇は、なによりもまず、祭りをする人であり、この本質は、終始、天皇の宗教的權威の原基をなしてきた。敗戦後の日本国において、天皇の最高祭司としての本質は不変であり(中略)基本的には揺らいでいない」(天皇の祭祀)よりと述べており、葦津、村上という天皇をめぐむ問題では鋭く対立する立場にある人も、こと天皇の存在意義、役割の本質については、「祭り主としての天皇」という認識で一致しております。

そしてこの本質を象徴しているのが、即位後に行われる「一世一代の重儀、大嘗祭」です。ここに天皇の天皇たる由縁があり、これを厳修することにより、悠久の歴史の中で、神武の「神代」が今に甦えるのであります。

この度の大嘗祭が伝統に則って斎行されることは天皇の本質を守ることでもあります。この点をしっかりと認識しながら、「平成の御大礼」の奉祝に向けて努力して行きたいと思っております。

「中予地区」

副会長 御田村 俊

皆サンコンニチワ 私共ハ愛媛県内ノ青年神主・女性神主デゴザイマス 只今皆様ニオ配リ致シテオリマス パンフレットハ コノ秋十一月天皇陛下ガ執リ行ワレマス皇位継承ノ諸儀式「御大礼」ニツイテワカリヤスク記シタパンフレットデゴザイマス ドウカコノパンフレットヲゴ覧ニナラレテ 天皇陛下御一代ニ一度キリトユウ皇室ト国民ニトツテ最モ重要ナ儀式「大嘗祭」ヲ始メ 日本ガ世界ニ誇ル伝統文化ノ集大成「御大礼」ニツイテ認識ヲ深メテ頂キタクオ願イ申シアゲマス。ソシテ県民コゾツテ奉祝ノ誠ヲ捧ゲテマイリマシヨウ……………

街宣文句一例

私共愛媛県神道青年会が行う事業活動には毎年恒例の定番事業(初詣ボスター制作など)と其の年度、時局に對

応して行う事業との二種類があります。本誌で御紹介する大嘗祭街宣活動は、平成二年度の事業計画において「まさに本年故に行う、行わなければならない事業」として計画されました。

御大礼とりわけ大嘗祭の重要性については県内各神社の宮司様神職の方々や氏子や崇敬者の皆様に対し各々御社頭において鋭意啓蒙に努められていらっしゃることでしようし、秋口よりテレビ・新聞などのマスコミが賛否入り混じえて大々的に報道を始め、やがて全国民衆知の事とはなるでしょう。其の様な状況の中で私共が街宣活動を行った其の目的というのは

「神社を出て、街中に入り、不特定多数の人々に対して「大嘗祭が天皇陛下御一代に一度の皇室と国民にとつ



松山市まつちかタウンにて

て最も重要な儀式であり、大嘗祭を含めた御大礼が日本が世界に誇る伝統文化の集大成であり、この世紀の祝典に国民こそつて奉祝の誠を捧げて参りましょう」との旨を演説とパンフレットを以て啓蒙するべく行う」というものでした。

一般に街宣活動については其の効果の程を疑問視する声があります。率直に申し上げて、我々自身この街宣を以て偏く啓蒙が浸透するなどという樂觀的な考えは持っておりませんでしたが、多分に自己満足的なものでした。これは自覚していませんでした。しかし、青年でなければ出来ない事「大嘗祭」の重要性について「神社の外に飛び出して」一人でも多くの人々に伝えたい。つまり青年神職の情熱の發露として「街宣」を計画したのであり、その実行において会員等は皆、青年神職の自覚と自信をもって堂々と胸を張って街宣活動を行ってくれました。私共の街宣によって幾人の方々が「大嘗祭」について認識を深めて下さったのか知る術はありません。しかし、県内各地から参加してくれた会員相互、そして御協力を頂きました女子神職会の方々との連帯感をより一層深めることが出来たということは確信出来ます。

では実際にどの様な街宣活動を行ったのかご報告致します。実行に当たっては其の対効果を考え、人々が多く集まる場所、曜日というこ

# え ひ め



松山市いよてつそごう前にて

とから左記の通りとし、服装については当然の事ながら、青年神職たる誇りと低俗な右翼連中との差異を明らかにする為、軽装を禁じネクタイを着用、腕には愛媛県神道青年会の腕章をつけました。

## ①八幡浜・西宇和方面

日 時 六月九日(土)十日(日)  
参加者 柳原・湊・御田村・吉田・武智・久保(兄)・久保(弟)・吉田(弟)・田中・真鍋・和氣  
○B 清家先輩

## ②今治方面

日 時 九月八日 土曜日  
参加者 柳原・武智・浅海・高田・熊本・堀川・芥川・真鍋・和氣  
女子神職会西村様・合田様・合田様・藤原様

## ③松山地区

日 時 九月十六日 日曜日  
参加者 柳原・御田村・吉田・武智・田内・都築・吉田(弟)・真鍋・和氣  
○B 清家先輩  
女子神職会武智様・那須様  
柳原婦人とお子さん二人

①については既に会報前号にて報告済みですが、②・③の街宣も①と同様に、看板とスピーカー・垂れ幕を装着した街宣車を一台ないし二台・ハンドスピーカー・大嘗祭奉祝の幟数旗・パンフレット(手渡した人に読む興味を覚えて頂く為にチラシではなくカラー刷りのパンフレットとし、②では二千、③では四千枚)を準備。メインストリート前などに街宣車を止め演説と其の周囲でパンフレット配布を行う。定地情宣と、ハンドスピーカーで口上する者、幟を持つ者、パンフレットを配布する者が隊列をなしてアーケード内を端から端まで行進する。従歩情宣と其の間街宣車が繁華街を縦横に走り流し情宣をする。という二方法で行いました。ちなみに③の街宣について記しますと(午後一時)集合いよてつそごう前にて定地情宣(午後一時半)まつちかタウンに入り↓銀天街↓大街道と従歩情宣、其の間街宣車は千舟、三三一番町を流し情宣(午後二時半)大街道北口に到着・休憩(午後三時)大街道北口に於て定地情宣の後逆行行程にて従歩及び



松山市大街道にて

流し情宣(午後四時半)いよてつそごう前到着・解散。と以上の様に行いました。予め予想はしていた事ですが、人々の反応(差し出されたパンフレットを素直に受け取るという事)は、総じて①よりも②、②よりも③になるに順って冷やかな人が多くなり、特に若者にその傾向が強くなりました。しかし、それは大嘗祭に対する拒否反応ではなく、都市部の人間特有のニヒリズムであると受取っています。勿論、我々に駆け寄り寄ってパンフレットを欲せられる方も少なくありませんでした。ともあれその様な状況の中、参加者全員の奮闘のかいあってパンフレットを完配することが出来ました。ハンドスピーカーによる必死の口上と、カラー刷りの体裁の良さによって、受け取った人は捨てることなくパンフレットを読み、又持ち帰ったことと信じています。……

拙い街宣活動ではありませんが、一人でも多くの人が、大嘗祭・御大礼について認識を深め、奉祝の誠を捧げて

くれますように……。

最後になりましたが、私共の街宣活動に援助のみならず自ら御参加下さいました元会長清家貞先輩。当会の目的に賛同され協力参加頂きました女子神職会の方々と、③においてお手伝い下さいました柳原会長夫人と双子のお子さん達(此の皆様方には、とかく硬くなりがちな街宣活動に、華やかさと微笑まじさを加えて頂きました。街宣車を貸与頂きました和霊神社本多洋先輩・堀川修巧会員・熊本真克会員)椿神社様。鶯の様?な声を街宣車用テープに吹きこんでくれた椿神社巫女井上優幸さん。そして県内各地から参加をし堂々と街宣を行ってくれた会員の皆さんにここにあらためて心より御礼を申し上げ次第です。本当にありがとうございました。

―神職・神道青年会員として今後も大嘗祭啓蒙活動を突き進めて参りましょ  
う  
以上



### 「東予地区」

理事 武智正人

神道青年会は、今秋斎行される大嘗祭に備え、大嘗祭を県民の方々に深くご理解戴くため、東予・中予・南予の各地域にて、「情宣活動」を行うことを本年の大きな活動のひとつとしているが、南予、八幡浜にて開かれた、「日本を守る県民会議」に際して行われたのに引き続き、去る九月八日、東予地区、今治にて情宣活動が執行された。

当日は、大変な暑さであったが、東予を中心に、神道青年会のメンバーが八名集合し、愛媛県女子神職会からも四名の方が助勢下さった。

椿神社様の御社用車、及び川之江の



今治港にて



今治港にて

三皇神社宮司熊本真克様の御車にスピーカーを搭載し、大嘗祭、斎行奉祝を啓蒙するテープを放送しつつ、今治市内を始め、東予市、菊間町まで巡行した。

他のメンバーは、大嘗祭とは天皇陛下の重要な御祭儀であり、国家安泰世界平和を祈念する御祭儀である旨を記したパンフレット約二、〇〇〇枚を市民の皆様様に配布申し上げた。

今治市民の皆様様の御理解、御協力の御心は深く、「ごくろうさま」頑張ってくださいの御声援を戴き、又、地元今治の神道青年会メンバーの地域に対す、日頃の密接な交流のおかげをもって、予定の時間の半分にて、パンフレットをすべて配布し終えた。

今治市民の皆様、本当にありがとう

ございました。  
女子神職会の皆様、神道青年会メンバーの皆様、ごくろうさまでした。

### 「南予地区」

理事 久保浩丸

県神道青年会では、本年度の事業活動として従来の活動のほかに、大嘗祭の啓蒙活動を掲げ、実践に努めることになっております。

そういう中、六月十日、八幡浜市に於いて大宮四郎先生による大嘗祭講演会の開催に合わせて、九日、十日の二日間、青年会顧問の清家氏の導きもいただき、十三名の会員が、活動いたしました。

前日は、八幡浜市・保内町を、二台



八幡浜市銀天街にて



八幡浜市八幡神社にて

の情宣車に乗り、奉祝を呼び掛け、各所で、パンフレットを配布、又駅前や商店街では、街頭演説や「天皇陛下ご即位大嘗祭心からお祝いしましょう」と書かれた幟を掲げ、講演会の案内と共に、奉祝を働きかけました。

当日は、会場の周辺で情宣活動を行いました。講演会も大盛況のうちに終り、会員にとつて初めての情宣活動も、一応の成果を収めることができたと思えます。

しかし、大嘗祭が、なにか中央の又皇室の祭りの様な風潮も否めず、全国民あげての祭りとなる様、一過性の活動に終らず、地道な活動を各自でも、又神青一丸となつて展開し、奉祝気運を盛り上げたものである。